

## 本校の図書館教育の目標

- 1) 情報の発信地として、学習情報センターとしての機能を高める。
- 2) 自ら学び、自ら考える力を培うために、興味・関心及び発達段階に応じた図書及び図書館を利用する力を習得させる。
- 3) 読書活動を通して、調和のとれた豊かな人間性を育成する。
- 4) 図書に親しみ、常に健全な読書生活が保持できるような習慣と態度を養い、児童の社会性、道徳性を育てる。
- 5) 図書及び図書館利用を生涯学習の一環として、余暇の健全な過ごし方を体得させる。

## 学習センターとしての図書館



算数の絵本「九九パーフェクト」も、遊び感覚で九九が覚えられるので1・2年生に大人気!

## 読書センターとしての図書館

～テーマ設定のいろいろ～



さまざまなテーマを設定して興味を喚起し、テーブル上に置くことで背表紙だけではわかりにくい内容を、表紙から読み取りやすくすることと、借りる時間の短縮効果があります。子どもたちは、本屋さんでお買い物をする感覚で興味を持った本を手にすることができます。

## 読書への誘い

### 校内読書感想画展



西日本読書感想画コンクール入選作品

### 校内童話発表会



### おすすめ本



### 読書標語



お友達に「読書ゆうびん」のはがきを出しました。

お話ボランティア「おひさま」の皆様は、毎学期に1回は来ていただき、いつもすてきな話を聞かせていただきます。

### もみじ集会(読書週間)での劇『てぶくろ』



## 取り組みの成果と課題

まず、読書への興味を喚起し、楽しさを味わってもらうために、様々な図書資料をできるだけ数多く紹介することを、特に心がけました。

さらに、意欲を高める為に、数値の目標を持たせ、図書館へ足を運んでもらうように努めました。

全体の87パーセントの児童が100冊を達成することができ、色々な本を手にする児童が増えています。又、友だち同士で本の紹介をしあったりする等、本に関する話題も増えています。

今後は、各教科の学習と関連した情報センターとしての図書館、一人一人の読書の

質・幅を広げる図書館としての役割をより果たしていくことが課題であると思います。

## 読み聞かせ



聞きたい話を自由に選択。校長室は満員でした。

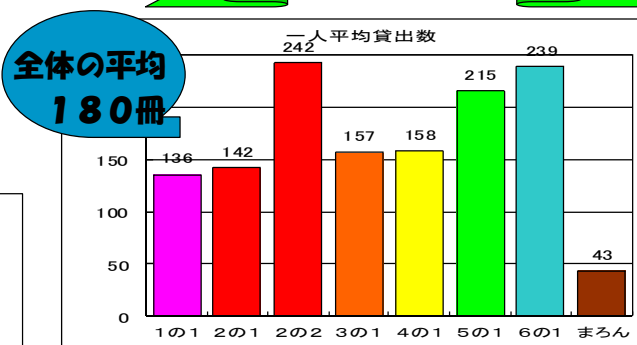


職員全員で「十二支のおはなし」を朗読劇。役に成り切って、職員も児童も楽しかったです。校長先生は神様、他は自分の干支を担当しました。



給食時間を利用し、その日の献立に関する本を紹介しました。この日は、『しょうたとなつとう』でした。

### 児童一人あたりの月別図書貸出し冊数



### 各クラス上位3名表彰

(写真は6年生)

金メダル=430冊 銀メダル=429冊  
銅メダル=366冊

